

長期ビジョン実現に向けた価値創造ストーリー

長期ビジョン2032・経営の重要課題（マテリアリティ）

JR西日本グループは、「私たちの志」のもと、2032年のありたい姿として「長期ビジョン 2032」（以下、「長期ビジョン」）を策定し、重点的に向き合う4つの課題（「安全、安心で、人と地球にやさしい交通」「人々が行きかう、いきいきとしたまち」「一人ひとりにやさしく便利で豊かなくらし」「持続可能な社会」）を設定しました。

また、「長期ビジョン」実現を支える基盤として2つの課題（「地球環境」「価値創造の源泉であるひとづくり」）を設定し、この6つを「経営の重要課題（マテリアリティ）」としています。

経営の重要課題（マテリアリティ）の特定プロセス

限りある資源を有効活用する観点から、自社の企業価値向上と特に関係が深い経営の重要課題（マテリアリティ）について、経営層レベルで議論を行いました。マテリアリティの特定にあたっては、社会課題を把握し候補リストを作成したうえで、社会的価値（社会への影響度）と経済的価値（当社への影響度）の2軸で評価し、社会的価値・経済的価値が共に高い

課題を抽出しました。

また、並行して実施した「私たちの志」「長期ビジョン」「中期経営計画」の策定に向けた議論を踏まえ、10年後の変化に伴うさまざまな社会課題の顕在化を想定し、マテリアリティを特定しました。

マテリアリティ特定に至る具体的プロセス

STEP 1 社会課題の網羅的な把握

ESG社外評価項目（FTSE）およびESG開示基準（SASBスタンダード）を参考に、ESGの視点から取り組むべき社会課題の洗い出しを行いました。併せて、SDGsの観点からも社会課題の洗い出しを行い、マテリアリティの候補リストを作成しました。

STEP 2 JR西日本グループ視点からの課題の優先付け

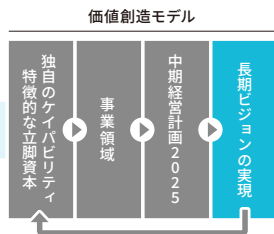
STEP1で洗い出しを行ったマテリアリティの候補リストを、リスク・機会、企業理念などに照らし合わせ、取り組むべき課題の優先順位付けを行いました。

STEP 3 社会および当社への影響度からの課題の優先付け

投資家の皆様をはじめとした、ステークホルダーの皆様、ESG評価機関からの評価やコメントなどに基づき、社会および当社への影響度の視座から、取り組むべき課題の優先順位付けを行いました。

STEP 4 マテリアリティの特定

STEP2（JR西日本グループ視点からの課題の優先付け）、STEP3（社会および当社への影響度からの課題の優先付け）で整理したマテリアリティの候補リストをもとに、経営層レベルでの議論（取締役会）において、社会的価値・経済的価値が共に高い重点分野として、6つのマテリアリティを選定しました。選定にあたっては、「私たちの志」「長期ビジョン」「中期経営計画」の策定過程の議論内容も反映しています。取締役会で定期的に取り組みの状況を確認し、サステナビリティ委員会で社会的価値創出につながっているかをモニタリングしてまいります。



STEP 1・STEP 2 ■マテリアリティ候補のリストアップのイメージ

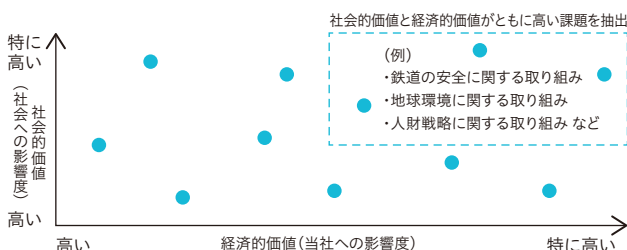
（ESG社外評価項目およびESG開示基準に基づく社会課題の洗い出し（一例））

	E（環境）	S（社会）	G（ガバナンス）
FTSE	・生物多様性 ・気候変動	・顧客責任 ・人権とコミュニティ	・腐敗防止 ・税の透明性
SASBスタンダード	・温室効果ガス排出量 ・エネルギー管理	・製品と品質の安全性 ・従業員の健康と安全	・経営倫理 ・クリティカルインシデント管理

（SDGsに基づく社会課題の洗い出し（一例））

JR西日本グループ事業との関連性	E（環境）	S（社会）	G（ガバナンス）
特に高い	・気候変動対策 ・海洋資源の保全	・雇用と働きがいの ある仕事 ・持続的な観光業促進	・効率的な公的・官民・ 市民社会のパートナー シップの促進
高い	・水と衛生の持続可能性の 確保 ・持続可能なエネルギーの 確保 ・生物多様性の損失阻止	・女性参画と平等な リーダーシップの確保	
低い		・貧困撲滅 ・健康的な生活の確保 ・質の高い教育の確保	

STEP 3 ■マテリアリティの優先付けのイメージ



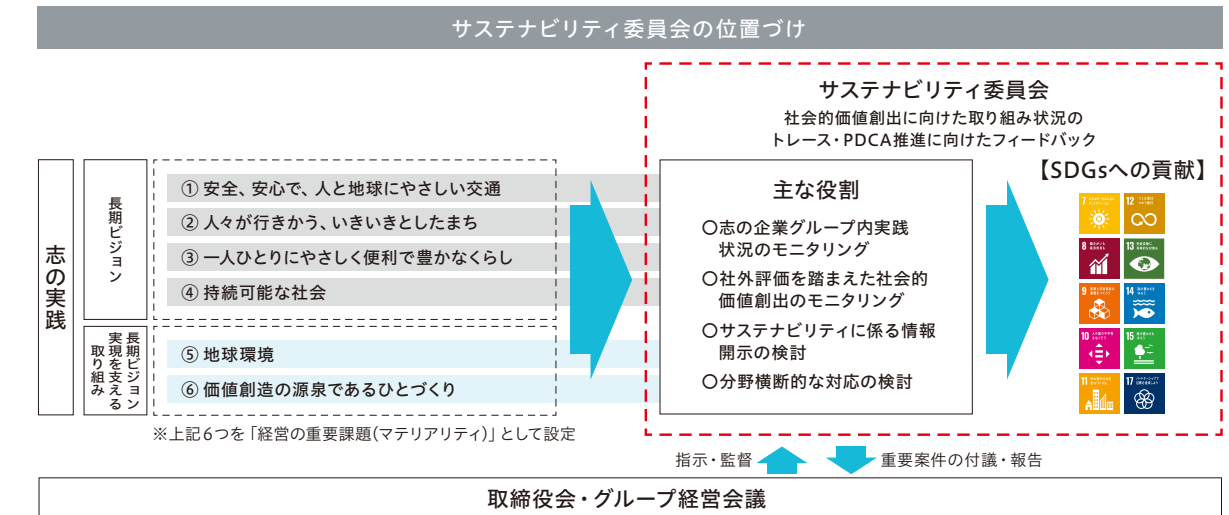
STEP 4 ■6つのマテリアリティ

長期ビジョン			
(1) 安全、安心で、人と地球にやさしい交通	(2) 人々が行きかう、いきいきとしたまち	(3) 一人ひとりにやさしく便利で豊かなくらし	(4) 持続可能な社会
長期ビジョン実現を支える取り組み			
(5) 地球環境	(6) 価値創造の源泉であるひとづくり		

サステナビリティ経営の推進体制

サステナビリティに係るリスクや機会、取り組みなどを審議・報告するための体制として、「サステナビリティ委員会」を設置しています。同委員会は、代表取締役社長を委員長として、本社部門を所管する業務執行取締役や、サステナビリティの取り組み推進および情報開示を所管する関係部門の長などで構成し、原則年2回開催しています。また、その審議・報告内容は取締役会およびグループ経営会議に付議・報告しており、社外取締役も交えて議論を重ねることにより、取り組みを確認しています。

サステナビリティ経営の推進にあたっては、マテリアリティに対する取り組みや、それらの根幹にある「私たちの志」の共有と発信が重要であると考えており、サステナビリティ委員会では、「私たちの志」の実践や「長期ビジョン」の実現に向けた各分野の取り組み状況について、社外からの評価、目標への到達度や課題なども踏まえて俯瞰的に確認し、関係する部門へフィードバックを行うことで、PDCAサイクルを回すこととしています。



ESG外部評価

当社は、以下のESGインデックスの構成銘柄に指定されています。

2024 CONSTITUENT MSCI ジャパン

ESGセレクト・リーダーズ指数

THE INCLUSION OF West Japan Railway Company IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF West Japan Railway Company BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



長期ビジョン実現に向けて

長期ビジョンの実現のために、鉄道の安全性向上に向けた不断の努力に加え、鉄道を中心としたモビリティサービス分野の活性化、ライフデザイン分野の拡大に挑戦し、最適な事業ポートフォリオを構築することで、将来にわたって持続的に価値創造を実現する企業グループに成長していきます。

